

第13回市民と議会の意見交換会開催報告

1. 日時

令和8年7月19日（日） 午後2時00分 ～ 午後3時30分

2. 場所

バンビオ1番館 2階 市民ギャラリー

3. 出席議員

議長	上村真造		
副議長	住田初恵（司会）		
議会運営委員会委員長	三木常照		
総務産業常任委員会	中小路貴司（長）	川口良江（副）★	
	武山彩子	宮小路康文	
	平木竜馬		
建設水道常任委員会	大伴 壘（副）		
	柊 彰★	住田初恵	
	倉地裕子	三木常照（代理）★	
文教厚生常任委員会	福島和人（長）★	中村 歩（副）	
	小谷宗太郎	天木みなみ	
	富田達也★	毛利 元	

4. 来場者

市民（35人）

報道（0人）

（長）は委員長

（副）は副委員長

★ は会派幹事

5. その他の出席者

議会事務局（6人）

6. 内容

- （1）開会の挨拶 〔上村真造議長〕
- （2）議会運営委員会委員の紹介
- （3）グループトークの説明及び各常任委員会委員の紹介
〔三木常照議会運営委員会委員長〕

(4) グループトーク

① 総務産業常任委員会グループの主なご質問、ご意見（抜粋）

○質問

【防災訓練について】

市が実施している避難訓練には日程的に参加しづらい場合があり、訓練時にどの程度の準備をして参加すればよいか迷うことがあるが、本格的な避難訓練を行うことは可能か。また、ペットを連れた避難訓練を自主的に行いたい、どのような方法があるか。

○回答 市が行う防災訓練は毎年10月最終週の日曜日に実施され、ダンボールベッドの組み立てや自治会主体の訓練が年2回行われている。

現在、寝泊まりを含むような避難訓練は市では実施されていないが、住民からの要望が高まれば検討される余地はある。他の地域では過去に実施された例もある。

ペット連れの避難訓練については、市役所の防災・安全推進室にも相談し検討してほしい。

○質問

【自治会運営の課題と対策について】

自治会の高齢化や自治会離れが進む中で、自治会の再編や運営の改革が必要と感じるが、自治会の運営方法はどのように決まるのか。

また、自治会への参加促進や情報共有が十分ではない状況を改善するためにはどのような方法が考えられるか。

○回答 自治会の運営は各自治会が自主的に決定しており、自治会ごとに運営方法は異なる。市では、デジタル回覧板「自治会サポ！」を導入するなど、役員の負担軽減や担い手の育成を進めているが、依然として課題も残る。自治会の情報共有については、転入者への案内資料の配布などを行うところもあるが、自治会への参加促進や情報共有の改善については、個々の自治会が自主的に対応しつつ、行政との連携なども深めて工夫してほしい。

② 建設水道常任委員会グループの主なご質問、ご意見（抜粋）

○質問

【地下水保全の取り組みについて】

長岡京市の地下水は貴重な資源であり、P F O SやP F O Aなどの汚染問題が指摘されている。原因や解決に向けた取り組みはどのようなものか。

- 回答 市民の大切な地下水資源を守るため、市では定期的な水質モニタリングを実施している。供給される水道水は府営水とブレンドされ、国の基準をクリアしている。今後も、関係機関と連携し発生源の究明・対策強化に努めるよう、市議会においても注視していきたい。

○質問

【バスの運転手不足への対応について】

バスの運転手不足問題に対して、長岡京市ではどのような対策を行っているのか。また、コミュニティバスやデマンド交通の導入状況はどうか。

- 回答 阪急バスの運転手不足に対応するため、長岡京市独自の制度として公共交通基金を設け補助金を出しており、去年はバス運転士2名、タクシー運転士6名分を補助した。市では路線バスを補完するためにデマンド交通（利用者の予約に応じて運行する乗合型の交通システム）などの導入可能性を検討しており、市議会の建設水道常任委員会でも視察を行った。

市では補助金など独自の制度が実施されており、路線バスの維持につながるものと考えている。

③ 文教厚生常任委員会グループの主なご質問、ご意見（抜粋）

○質問

【高齢者の口腔ケアについて】

高齢者福祉について、体力は内臓や誤嚥なども関わってくると考える。体操はさまざまな場所でやっているが、口腔ケアについても力を入れてほしい。

○回答 フレイル（虚弱）予防として、運動、栄養（口腔）、社会参加の3本柱で取り組みを行っており、その中でお口の健康として教室も実施されていると聞いている。また、株式会社ロッテとも包括連携協定を結び、口腔の健康づくりの面で協力いただいております。京都府乙訓歯科医師会や京都府歯科衛生士会乙訓支部とも連携していると聞いている。

○質問

【経済格差による学力支援について】

家庭の経済的格差が子供の学力差に影響していると感じる。習い事給付金やチケットの導入を検討できないか。特に習い事をしていない子供たちがスマホに時間を使っている現状を改善したい。

○回答 他県では習い事給付金のような制度を導入している自治体もあるが、学力向上への効果は限定的だと考えている。経済力による学力差は現実的な課題で、公教育で格差が出ない取り組みが重要だと考える。

（５）閉会の挨拶 〔住田初恵副議長〕